

財団法人8020推進財団

平成16年度歯科保健活動助成事業報告書

「障害者（児）における摂食嚥下機能障害のビデオ製作」

社団法人佐世保市歯科医師会

## 【はじめに】

誤嚥性肺炎の予防に口腔ケアが有効であることが広く認識されるようになり、近年では、機能的な障害に対応するため、摂食嚥下障害に対する関心も次第に高まり、様々な研究報告がされるようになってきている。しかしながら、摂食嚥下障害については、発達障害や中途障害、さらに老化（機能衰退）等、その成因や障害程度が様々であり、その研究が進むにつれ、摂食嚥下障害の診断法、治療法、訓練法も次第に明らかになりつつあるものの、一般の多数の歯科医にとっては、いまだ複雑で難解な分野となっている。特に発達障害者（児）については、一部の歯科医を除き歯科治療の機会さえ多くはない。

今回我々は、より多くの会員に、摂食嚥下障害の問題に関心を持ってもらい、今後、摂食嚥下リハビリテーションのチームアプローチの中で、歯科医師として障害者（児）のQOLの向上に寄与できるよう、その足がかりとして、障害者（児）の摂食状況をビデオカメラにて撮影収録し、摂食嚥下障害を示唆する兆候や、対処法としての介助のポイントなど解説を交え、「障害者（児）摂食嚥下障害入門」としてビデオを作製した。

## 【方法】

佐世保市歯科医師会医療福祉委員会所属の会員数名が、今回のビデオ作成に関する協力依頼書《資料1》を持参の上、佐世保市内数箇所の障害者関連施設を訪問し、施設関係者にビデオ作成の主旨を説明した後、理解、賛同の得られた2施設において、施設に通所あるいは入所する障害者の中で、その保護者にビデオ作成の主旨を説明し、撮影の承諾書《資料2》を得られた16名（某重症心身障害者通園施設11名、某心身障害者総合福祉施設5名）について、後日、カメラマン1名と歯科医師数名が施設を訪問し、昼食時の食事状況をビデオカメラにて撮影収録した。

また、障害者（児）の摂食嚥下障害に対して積極的な取り組みをおこなっていた某心身障害者通園施設に関しては、今回のビデオ撮影に関する保護者および職員の要望《資料3》、施設における食事援助方針《資料4》、食事に関して確認する援助項目《資料5》、食物形態の種類《資料6》について調査をおこなった。また、撮影の承諾が得られた13名（最終的には、日程の都合などで11名撮影）の障害者（児）については、個々について、疾患名、障害名、ADL、摂食嚥下に関する既往歴、摂食障害評価表、食事に関する援助内容をそれぞれ作成し参考資料とした《資料7》。

収録した映像は、後日、佐世保市歯科医師会医療福祉委員会委員（6名）および、趣旨に賛同し協力を申し出た会員数名、障害者福祉施設や病院等で障害者の摂食に関わる看護師、理学療法士にて検討、編集をおこなった。

## 【結果】

食事状況の撮影収録をおこなった障害者（児）16名のうち、摂食嚥下障害の兆候として、食べこぼし、流涎、口唇閉鎖不全、舌突出、丸のみ、むせ、咳き込み等が比較的明瞭に収録された9名について、資料を確認し検討後、解説を加え編集をおこなった。また、食事姿勢、食物形態、および捕食咀嚼時、嚥下時について、それぞれ食事時に注意すべき点をまとめ、障害者（児）摂食嚥下障害入門ビデオを作製した。

## 【考察】

近年、摂食嚥下障害に関して様々な研究報告がなされてきているが、中途障害や機能衰退（老人）のそれに比較して、知的障害を含む発達障害については、まだ決して多いとはいえない。その原因のひとつに障害者（児）を取り巻く環境（施設、介助者、保護者等）があると思われる。今回のビデオ撮影をおこなうにあたり、複数の障害者（児）関連施設へ打診したが、難色を示す施設が多く見られた。その理由としては、マンパワーの不足により現在十分な対応が取れていない（介助に時間的制約がある）現状を撮影されたくない、保護者の理解が得られない等が主なものであった。十分に予想できたことではあったが、そういった現状を打開するための足がかりとして今回のビデオ撮影を企画した我々には残念な結果となった。今回完成したビデオは歯科医師会会員へ配布し、会員の摂食嚥下障害に関する理解を深めるとともに、可能な限り関連施設へも配布し、医療側、障害者（児）側の間にある壁を双方の側から崩していき、障害者（児）にとって真のバリアフリーの環境を整えていくことが、現在、障害者医療に携わるものの責務であると思われる。